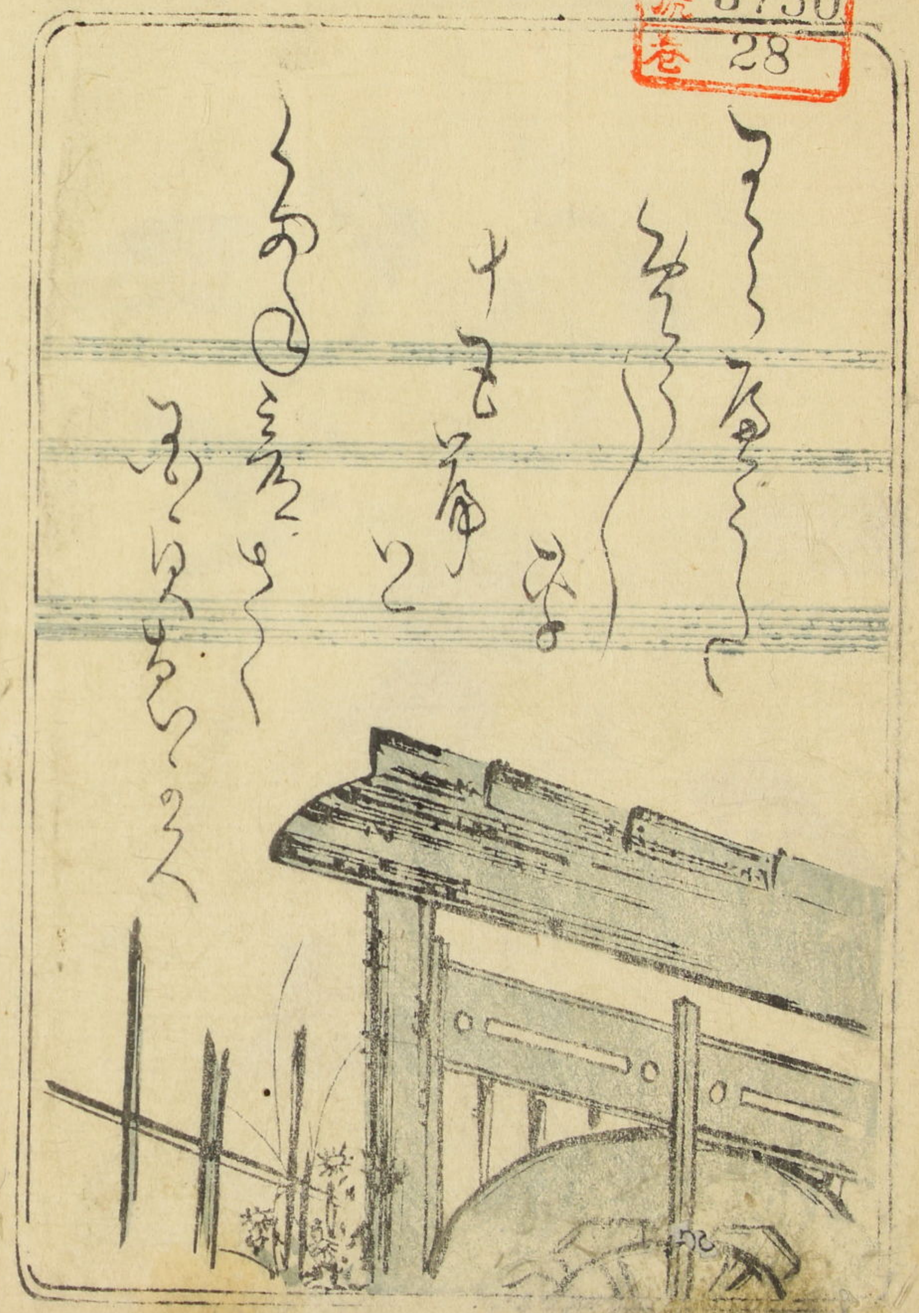
Gôkan:(No. 086)
Myô-myôGurama.
Part 4. Book 15--18

へ13
3750
28

門へ13
號3750
巻28



車榻の許へ百夜通ひと云故事は袖中抄に柔く見えられと誰とも名のるに昔話に曾て小町の事よりも謡曲の作者深草の少將と云人造漆て通小町と云物を丸太に拠て編出したるより小野小町の事と定り妙々車は何とも解ぬ幼童の口吟するも車僧の傍に摸せ妙々道人の乗物と思はれ

[illegible]

ちゃくちゃくと人名と合巻好に合點させる今戸の手柄も鬼の年に賣出させ故に僕狸の土の舟重い筆にて嗣編にも已に前に申如く車とうけても回りて稿本存外遅々として雨の降日も風吹とても引きうの多く催促に来咲揃るぬ菖蒲浦に返しもせぬ横書のまくらの投出せ此一編いまるる中にも

文久二春

錢車の糸より老けて作躰のうぶ

種彦

後俤紫樓

玄湖傭書

志度六

阜用姫

妖魔道人
吸女の
現鬼形

沙弥香念
柳ぞうこ
夜桜の
くものまちぐんちと
きりの藤うま

花垣重三郎

本家
實母散
さんせんさんどふぐすりのうち一切の妙薬
私方実母さんの気ハ中ごろ一朝こんなに丁目西ゑ
ゑ年来賣弘メ来りハ世ハ高ク家内不
向ゆゑ八引ろうり中ゆゑふ世ハ弘メ礼向ゆゑ致上ル
中橋南傳馬町一丁目東ゑ
千薬堂孝輔製

鼠祠通夜譚

四編より
八編まで
出抜仕り

柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

厚化粧萬年嶋田

初篇より
追々出抜
辰春軒ちん

爲永春水作
梅蝶樓國貞画

這ハ世ハ普く沙汰せらる姐己阿百が傳ハ——て是ハ和尚奥の惡靈
貧繰芦田の家ハ仇做んとせ妻ハ忠臣孝女ありて渠ハ毒手ハ苦さ
あどせる衣ハ——て花ハ散る宜く理の法ハ——草奴紙ハ